2024年10月21日

各　位

会　社　名　オンコリスバイオファーマ株式会社
代表者名　代表取締役社長　浦田　泰生
（コード番号:4588）
問合せ先　執行役員　秦　耕平
（TEL.03-5472-1578）

お問い合わせへの回答に関するお知らせ

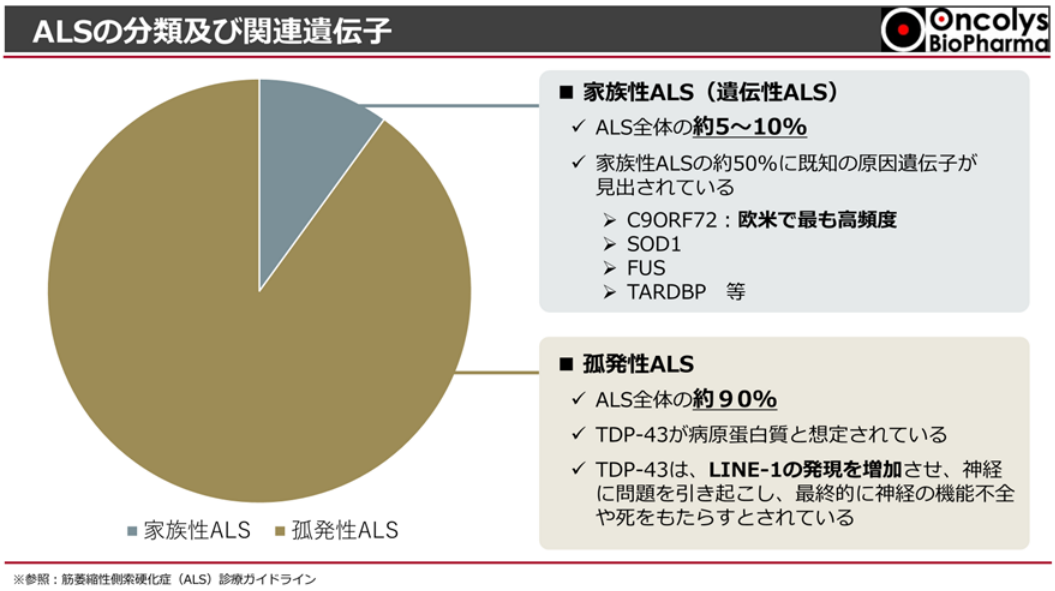
当社は、フェア・ディスクロージャーの観点から、当社にご関心をお寄せいただいているステークホルダーの皆さまへの公平な情報開示の必要性を鑑み、お問い合わせ頂いたご質問に対して、まとめて回答を差し上げています。

1.　お問い合わせへの回答

【ご質問①】
OBP-601 のライセンス先である Transposon 社は、ALS と FTD の患者を対象に欧米で実施した Phase2a 臨床試験を実施しましたが、FTD の結果を公表する予定はありますか？

ご指摘の通り、Transposon 社は、C9-ALS（筋萎縮性側索硬化症）／C9-FTD（前頭側頭型認知症）Phase2a 試験に関して、これまでに FTD の結果は公表していません。同社が本結果を公表するに至った場合には、当社は速やかに皆さまにお知らせする方針です。

一方、2024 年 7 月 25 日のプレスリリースなどに記載のとおり、Transposon 社は C9-ALS の承認申請に向けて Phase 3 臨床試験を具体的に計画しています。また、C9-ALS の試験結果に基づき、より大きな市場規模の拡大を見据え「孤発性 ALS」を対象とした臨床試験も検討中です。



OBP-601 が C9-ALS 患者の死亡率と相関する呼吸機能の低下を抑制したことは、臨床的に大きな意義があると考えられています。当社は、今後実施される予定の Phase 3 臨床試験を注視すると共に、Transposon 社の情報開示ポリシーを尊重し、適切な手続きを遵守しながらステークホルダーの皆様への情報発信に努めてまいります。

【ご質問②】
第 62 回日本癌治療学会学術集会では OBP-301 などの腫瘍溶解ウイルスに関する複数の演題が見受けられました。これは、どのような意義を持つのでしょうか。

日本癌治療学会は、がん治療に関する最新の研究成果や治療技術を発表・共有し、医療の進歩と普及に貢献することを目的とした、会員数 16,000 人以上の権威ある学会です。毎年開催される学術集会では、がん治療に関わる臨床医や研究者、メディカルスタッフ、企業の専門家が集まり、革新的な治療方法の可能性や新薬の開発状況を始め、実際の医療現場やがん医療の未来について議論・意見交換が行われます。

当社は、この学会において OBP-301 を含め複数の腫瘍溶解ウイルスが取り上げられていることを、嬉しく感じています。これは、がん治療における新たなモダリティへの期待の高まりを示すものであると考えており、最前線で活躍するがん治療の専門家の間でその認知がさらに広がっていくことに期待しています。

腫瘍溶解ウイルスは、局所での腫瘍縮小効果に加えて、患者自身の抗腫瘍免疫を活性化することが報告されています。この新しい治療アプローチは、医療現場に新たな希望を提供し、がん治療の未来を切り開く可能性があります。

当社は、本学術集会を、次世代のがん治療方法の 1 つとして腫瘍溶解ウイルスを認知して頂く貴重な機会と捉えています。

2. 免責事項

・業務上の守秘義務やインサイダー情報管理の観点から、お問い合わせいただく全てのご質問に回答することは難しく、よくいただくご問い合わせを抜粋の上、本資料にまとめています。
・回答内容につきましては、ご質問をいただきました時点での当社の状況及び予測に基づいており、将来にわたって正確性が約束されたものではないことについてご理解賜りますよう宜しくお願いいたします。
・医薬品（開発中のものも含む）に関する情報が含まれておりますが、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

3. その他

当社は、HP に「IR お問い合わせ」ページを設置しています。ご意見・ご不明点等につきまして、以下のリンク先、若しくは QR コードからお問い合わせをお願いします。

https://www.oncolys.com/jp/inquiry.html

以　上